



県文《和蘭陀白雁香合》 デルフト窯 オランダ17世紀
— 茶道美術名品選より —

■ 名物裂と茶道美術

■ 茶道美術名品選 I

- 第73回現代美術展
- 企画展Topics「よみがえった文化財」
- 今年度開催の展覧会
- 平成28年度の展覧会をふりかえって
- 展覧会回顧「女性作家のきらめき」
- ミュージウムレポート
- 4月の行事予定
- 友の会バスツアー参加者募集
- アンケートにお答えして

茶道美術名品選 I

3月27日(月)～4月16日(日) 会期中無休

加賀藩祖・前田利家と、嫡子で二代藩主・利長は千利休から茶の湯を学んでいます。そして本年一月に、カトリック教会で崇敬の対象となる福者に列せられた高山右近も利休の高弟でした。豊臣秀吉のキリスト教棄教の勧告を拒否したことから領地を没収され、追放の身となった右近が、利家により金沢に迎えられたことを利休が喜んだことが現存する利休の書状から知られるように、利家と右近の間には利休を介した茶の湯の強い絆があったと考えられます。また藩臣として金沢で二十六年間を過ごした右近と利長は、茶友として加賀の地における茶の湯振興に尽力したことがうかがえますので、当地は利休の茶風とゆかりが深い土地柄といえます。

こうした背景が、文化的な求心力となって石川県には茶道美術の名品が数多く集積されています。今回展示される《黒楽茶碗 銘北野》(長次郎作)もそのひとつです。この茶碗は秀吉が主宰した「北野大茶の湯」で利休が使用したとの伝承がありますが、詳細は明らかではありません。黒楽茶碗は利休による佗茶の精神を具現したものとされますが、「北野」が千家にとつては「利休遺偈」に匹敵する意義と価値を持つと認識されていたことを知るにつけて、当地と利休の縁により「北野」が伝来したと思えます。

今回は「北野」と《青井戸茶碗 銘宝樹庵》、《粉引茶碗 銘楚白》(いずれも県文)の三碗を一点ずつ独立ケースに展示するほか、《鉛釉烏香炉》(県文・初代大樋長左衛門作)など当地にゆかりの深い茶道美術の名品を展示します。



《黒楽茶碗 銘北野》

名物裂と茶道美術

3月27日(月)～4月16日(日) 会期中無休

名物裂とは日本の鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、主として中国の宋、元、明の時代に舶載された染織品で、特に金襴や緞子などが広く知られています。これらは当初、高僧の袈裟や武将の衣服、あるいは寺社の帳などに用いられました。たとえば、今回展示する《小石畳地宝珠形鳳凰雲文様金襴》は、興福寺の帳として用いられたとの伝承があることから、「興福寺金襴」と呼ばれています。同様に《小石畳地霊芝文様金襴》は、大徳寺の開祖・大燈国師宗峰妙超の袈裟裂と伝えられていることから「大燈金襴」と呼ばれています。今回展示される作品の通称の由来をもう一つ挙げると、室町幕府八代将軍・足利義政が能楽「二人静」を舞った際に着用した装束の

裂という伝承から、《双鳳丸文様金襴》は「二人静金襴」の名で知られています。

これらの名物裂は、やがて茶道の興隆にともなって茶入を納める仕覆や、掛軸などの表装に活用されるようになりました。そこで、有名な茶人が好んだということで「珠光緞子」(龍三爪唐草文様緞子)や「遠州緞子」(花七宝入石畳文様緞子)など茶人の名を冠した通称が付けられたものもあります。加賀藩三代藩主・前田利常は渡来織物の収集に人一倍意欲的で、今回の展示作品からその執心ぶりが偲ばれます。また今回は《玳皮蓋天目茶碗(梅花天目)》や《古瀬戸茶入 銘孫六》などおなじみの茶道美術も展示します。

《遠州緞子》

企画展Topics

石川県文化財保存修復工房設立20周年記念

よみがえった文化財 —未来へつなぐ文化財保存と修復のわざ—

4月22日(土)～5月28日(日) 会期中無休

石川県は、一九九七年に石川県立美術館の付属施設として石川県文化財保存修復工房を開設しました。そして二〇二六年には建物の老朽化に伴い美術館の広坂別館に隣接してリニューアルオープンし、主として地元北陸の文化財修復の拠点となるべく実績を重ね、本年開設二十周年を迎えます。

修復工房では、(一財)石川県文化財保存修復協会の修復技術者が、指定文化財を始めとする多数の作品の修復を手がけてきました。このたび開設二十周年を記念して、修復工房二十年の歩みを修復実績作品により集大成するとともに、先駆的に文化財の保存・修復に取り組んだ加賀藩主・前田家による政策の貴重な所産としてユネスコ世界記憶遺産・国宝《東寺百合文書》や重文《一遍上人絵巻》を特別公開し、藩政期から修復工房開設に至る石川の文化風土を再認識しつつ、文化財の保存・修復の現状と今後の展望を考察する展覧会を開催します。

主な展示作品は《西湖図》(秋月等観筆・当館蔵)、《吾妻鏡》(卷子装・前田育徳会蔵)、江戸時代後期の和算家・測量家の石黒信由以下四代による和算、測量術、絵図作成などに関する資料群《石黒信由関係資料》(高樹会蔵)以上重文。《浄名院様御影》(狩野探幽筆・加賀本多博物館蔵)、《南蛮渡来図屏風》(本泉寺蔵)、《賦何人連歌》以上県文ほか、国宝一件、重文四件、県文二十二件を含む約七十件を修復過程を紹介しながら展示します。



《西湖図》修復の様子

第3～9展示室 第73回現代美術展

3月30日(木)～4月16日(日) 会期中無休

昭和二十年十月に第二回展が開催された現代美術展は、本年73回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術工芸王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部門／

日本画(第3・6展示室)
工芸(第4・5展示室)
書(第7・8・9展示室)

金沢21世紀美術館では、洋画・彫刻・写真が展示されます。

◆入場料(金沢21世紀美術館と共通)

	一般	大高生	中小生
当日	一,〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金に割引されます。

◆作品解説／会期中、作品解説を行います。

◆開館時間／午前9時30分～午後6時

当館の展覧会をお楽しみください

平成二十九年度は三つの企画展を計画しています。

春の企画展は「石川県文化財保存修復工房設立20周年記念 よみがえった文化財―未来へつなぐ文化財保存と修復のわざ―」です。石川県文化財保存修復工房は、平成九年、石川県立美術館の付属施設として開設され今年二十年を迎えました。これまで県内外から依頼を受け、重要文化財や県市の指定文化財など数多くの修復を行ってきました。本展ではその実績を紹介するとともに、文化財の保護にも先進的に取り組んだ加賀藩主前田家の業績と今日に継承されている思想を「国宝 東寺百合文書」などを通じてご覧いただきます。

秋は、「燦めきの日本画―石崎光瑤と京都の画家たち―」を行います。京都画壇を代表する作家のひとり、石崎光瑤は富山県福光に生まれ、少年期に金沢で琳派の絵師・



よみがえった文化財
―未来へつなぐ文化財保存と修復のわざ―
重文〈西湖図〉秋月等観 当館蔵



燦めきの日本画
―石崎光瑤と京都の画家たち―
《寂光》石崎光瑤 福光美術館蔵



森羅万象をまとう
―友禅 人間国宝 木村雨山・二塚長生の仕事―
《縮緬地友禅訪問着「松」》木村雨山
日本伝承染織振興会蔵



東京国立近代美術館工芸館名品展
陶芸の名作
《黒釉褐斑斑鳥文鉢》石黒宗磨
東京国立近代美術館蔵

山本光二に日本画を学びました。京都では竹内栖鳳の門に入り、文展・帝展に出品し、写実に基づく鮮やかで装飾的な花鳥画を得意としました。京都市立美術専門学校教授を務めるなど、大正・昭和前期を代表する画家として知られます。本展では、光瑤と同世代の上村松園・土田麦僊・村上華岳らの作品とともに京都画壇を紹介します。

新春二月には「森羅万象をまとう―友禅 人間国宝 木村雨山・二塚長生の仕事―」を開催します。加賀の手描き友禅をベースに、独自の作風を展開した加賀友禅の人間国宝、木村雨山と二塚長生の二人展です。近代工芸の黎明期から精力的に制作を続け、日本画の技法を友禅に応用した雨山と、水や風などの自然の動きを抽象的に表現した二塚の作品から石川の代表的な伝統工芸である「加賀友禅」を再認識していただきたいと思えます。

コレクション展示室では特別陳列として、

前田育徳会尊經閣文庫分館で「百工比照」を紹介します。秋に開催の「21世紀鷹ヶ峯フォーラム」にあわせ、十月から十二月の公開となります。第2展示室では長谷川等伯・岩佐又兵衛・久隅守景などを取り上げた「北陸ゆかりの画聖」、近現代美術では工芸で「高橋介州と加賀象嵌のあゆみ」、絵画で「日本画家 池田瑞月―草花へのまなざし―」を行います。その他の企画として十二月には「東京国立近代美術館工芸館名品展」の第二弾「陶芸の名作」を予定しています。

また企画展示室では当館企画の展覧会に加え、当館が主催に加わる「これぞ暁斎！世界が認めたその画力 ゴールドマンコレクション」をはじめ二十八の展示が予定されています。今年も石川県立美術館の展覧会に足をお運びください。

平成28年度の展覧会を振り返って

平成二十八年度は新幹線金沢開業から一年を経て、石川へ数多くの来県者が訪れました。まさに真価を問われる年となったなか、三つの企画展を開催しました。

春は「脇田和展 ―鳥に詠う―」を行いました。日本洋画壇を代表する画家、脇田和の作品三七点を寄贈いただいた記念の展覧会として、新収蔵となった脇田作品をドイツ留学時代から晩年まで、油彩・素描・版画など時代を追って展示しました。企画三室あわせても今回寄贈いただいた作品の半数にもなりません。今後はコレクション展示室で特集展示などを行い、少しでも多くの作品をご覧いただきたいと思えます。

秋の「近代美術の至宝 ―明治・大正・昭和の巨匠―」はわが国の近代美術を代表する作家の名作を集めた展覧会でした。教科書に載っているような作品を、各地の所蔵者からお借りして展示したもので、日本近代

に花開いた多彩な美術表現を鑑賞する絶好の機会になったものと思われまます。

新春一月には「絵画にみる江戸の暮らし ―浮世絵版画を中心に―」を開催しました。浮世絵はかつての江戸の人々の暮らしぶりを今日に伝えてくれています。芸事や遊里での遊び、旅の情景や憧れの歌舞伎役者など当時の人たちの生活をご覧いただきました。

コレクション展示室では特別陳列として前田育徳会尊經閣文庫分館で「財団設立九〇周年前田利為の業績とコレクション」を開催しました。前田家に伝わった文化財を管理し、今日に伝える前田育徳会という財団設立に尽力した前田利為を紹介するものでした。第2展示室では年間を通して指定文化財をはじめとする優品の数々を紹介しました。「福者認定記念 高山右近」では右近自筆の書状のほか、県内伝来のキリシタン関係

の遺品を紹介しました。

近現代美術では、特別陳列として「開光市 ―誕生―」（洋画）のほか「挿画の鬼才山崎百々雄」「洋画家立見榮男」「長谷川大治郎・梶本良衛 木彫二人展」などの数多くのテーマ展示を行いました。

工芸では、「石川の工芸 女性作家のきらめき」と題した特別陳列で、明治期に活躍した作家から現代まで二十一人の女性作家を紹介しました。

東京国立近代美術館工芸館が平成三十二年に石川県へ移転することになり、工芸館とその所蔵品を紹介するための「東京国立近代美術館工芸館名品展 近代工芸案内」を年末から二月にかけて第5展示室で開催しました。本多の森に工芸館ができるまでの期間、当館の二室を利用して毎年展覧会を予定しています。



脇田和展 ―鳥に詠う―



近代美術の至宝
―明治・大正・昭和の巨匠―



絵画にみる江戸の暮らし
―浮世絵版画を中心に―



東京国立近代美術館工芸館名品展
―近代工芸案内―

特別陳列「女性作家のきらめき」

「女性作家のきらめき」にお運びいただいた皆様、ありがとうございます。明治・大正期に活躍した作家から、現在工芸界を牽引する作家まで、二十名の作品を展示しました。

女性作家の作品を追うことは、工芸界の近代化をたどることでもあります。明治生まれの天野文堂が、「女性は鑿を振るうな」と言われながら、弟子を取り、夫とともに作品を制作したことは、前号で触れました。また工芸作家の背中を見て育った女性もいます。二代 砺波宗斎、四代 徳田八十吉、南絢子らは、父から技術を学び、そこから独自の表現世界を築いてきました。

なお、平成に入つて活躍を始めた徳田八十吉と南絢子は、共に石川県立九谷焼技術研修所の修了生です。昭和五十九年に設立された研修所は多くの作家を輩出しており、こうした組織の整備や美術学校の多様化が、女性作家の活躍を後押ししたことは間違いありません。

一方、結婚や育児、あるいは子どもの成人を機に、作家の道を進み始めた女性もいます。たとえば、染織作家の木場紀子は結婚してから石川県に移り、独学で紬を学びました。また日本伝統工芸展を中心に活躍する後上俊香は、子育てを終えてから九谷焼技術研修所へ入り、受賞歴を重ねています。

工芸界への入口は様々ですが、いずれの作家も「女性だから」という言い訳をすることなく、常に強く朗らかな創作意欲を湛えているように思われます。二十通りのライフワークから、皆様にも「女性作家のきらめき」を感じていただけたなら幸いです。



ミュージアムレポートワークショップ 浮世絵「摺り実演&体験」

「描いていないの?」どうやって何色も重ねるの?という、浮世絵を見て抱くギモンを、「版木を摺る」実演を見て、理解してもらおうというものです。

実演は、東京のアタチ伝統木版画技術保存財団の田崎さん、摺師の京増さんにお願いしました。摺り上がるのは、浪裏こと葛飾北斎の《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》。何枚も並ぶ版木に何色もの絵の具。いくつものハケ、見覚えのある懐かしいバレンが用意されています。

田崎さんの丁寧な解説とともに、浪裏は色を重ね、少しずつ仕上がっていきます。力強くバレンを摺る京増さんが、版木から紙をめくる度に、多くの見学者がそれに見入りました。実演後の体験では、摺りにはかなりの力を要することに驚かれる方がほとんどでした。

四月の行事予定

<p>■映像ギャラリー</p> <p>午後1時30分～美術館ホール入場無料</p> <p>4月23日(日)</p> <p>加賀百万石美と歴史風土 (33分)</p> <p>文化財の劣化と対策 (23分)</p>	<p>■展示室でスケッチGO!</p> <p>午後1時～3時2F展示室 申込不要</p> <p>4月29日(土・祝)</p> <p>お気に入りの作品を磁気式ボードにかいてみよう</p>	<p>4月30日(日)</p> <p>■はじめての竹工芸</p> <p>①午前10時～12時 ②午後2時～5時 要申し込み</p> <p>茶道具の鑑賞と竹工芸の制作体験(講座とも完成作品で、抹茶体験もを行います)</p> <p>①マイ菓子(よじり)づくり 対象:定員/小学生5・6年生とその保護者(5組)</p> <p>参加費/1組1,000円(抹茶 菓子代含む)</p> <p>②お茶(よじり)づくり 対象:定員/大人(5名)</p> <p>参加費/1名2,000円(抹茶 菓子代含む)</p> <p>◆お申し込み【締切/4月19日(水)必着】</p> <p>往復はがきに、講座名・住所・氏名(①は学年・電話番号を記載して左記の宛先まで郵送してください。(応募者多数の場合は抽選)</p> <p>〒912-0100 九六三金沢市出羽町二一一</p> <p>石川県立美術館「はじめての竹工芸係」</p>
---	--	---



平成29年度 友の会 第15回バスツアー 参加者募集

木と暮らす、木を活かす — 飛騨・高山の町並と円空仏 —

期 日／平成29年5月27日(土) 参加代金／友の会会員 8,000円
集合時間／午前7時20分 会員以外 8,500円
発 着／金沢駅金沢港口(西口) 募集定員／42名

◆見学地

【飛騨匠の文化館】飛騨は古くから、優れた左官や大工の町として知られてきました。実際に木組みを手に取りながら、匠の技術を学びます。
【千光寺】江戸時代、全国で独特の仏像を彫り続けた円空。鑿痕を残す素朴な作風が、近年注目を集めています。円空が実際に訪れた千光寺では、作品数十点をご覧いただくことができます。

【高山陣屋】郡司の役所・邸宅として使われていた高山陣屋は、規模や用途を変え、現在まで建物の一部が残されています。維持や増改築には、折々の大工・使用者による工夫が見られます。

【日下部民藝館】高山市内の古い町並みを散策したあと、日下部民藝館へ入り、建物内部を見学します。館内には商家・日下部家が受け継いできた家宝、そして民芸のコレクションが展示されています。

◆申込方法

往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

① 往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)をお書きください。

② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。

③ 返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒920-0109 金沢市出羽町二一

石川県立美術館バスツアー係

◆応募締切 四月十四日(金) 必着

※応募者一名につき、往復はがき一通をご応募ください。ペアでお申し込みの方は、お一人ずつはがきを添え、その上で「〇〇さんとペア申込」とお書き添えください。

※急な階段や歩きにくい道が行程に含まれます。



アンケートにお答えして

今年度も、石川県立美術館に多くのご意見・ご質問をいただきました。アンケートにお答えくださった皆様、ありがとうございます。常設展アンケートの中で特に多かったご意見にお答えします。

◆照明が暗すぎる

「作品保全のため」という言葉をよく聞かれるかと思いますが、その通りです。蛍光灯から発せられる紫外線やわずかな熱は、紙・絹などを劣化させてしまいます。そのため、文化財展示用の照明には制限が設けられています。とはいえ、照明の向きや周辺空間の光量を工夫することはできますから、学芸員は日々研修などに参加して照明の方法を学んでいます。

◆展示室内が寒すぎる・暑すぎる

夏には「寒い」、冬には「暑い」という意見をいただきます。展示室内は常に22℃前後、湿度50〜60%に保たれていますが、これは作品の状態を一定にしておくためです。必ずしも快適でないかもしれませんが、どうぞご了承ください。

◆展示作品の写真を撮りたい

現在、展示室内での写真撮影は原則お断りしています。理由の一つは、他のお客様にご迷惑がかかるおそれがあるためです。展示作品やケースにぶつかる可能性を低くし、またシャッター音や操作音などを除いて、より多くの方に「生で鑑賞する」体験を楽しんでいただきたいと思います。もう一つは、作品の著作権に関わる問題です。寄託作品や、近現代に制作された作品など、著作権が石川県立美術館にないものも展示しています。撮影禁止のサインを提示する方法もありますが、ファインダーに何が写ったか、誤解のないようにしたいと考えています。

会期：平成29年4月22日(土)～5月28日(日) 会期中無休



重文《石黒信由関係資料》
加越能三州郡分略絵図
高樹会蔵

重文《一遍上人絵巻 巻1》(部分)
前田育徳会蔵



ユネスコ世界記憶遺産・国宝
《東寺百合文書 シ函》
京都府立京都学・歴史館蔵(画像は同館WEBから)



重文《西湖図》秋月等観筆
石川県立美術館蔵



県文《印鑰明神垂迹図》
印鑰神社蔵

重文《吾妻鏡》(部分)
前田育徳会蔵

次回の展覧会

会期：4月20日(木)～
5月28日(日)

		前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(4月は3日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 4月の休館日は 17日(月)～19日(水)
		前田家 武の装い I	茶道美術名品選 II	
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室	
新収蔵品展 (絵画・彫刻)	春の優品選 (工芸)	優品選 (絵画・彫刻)	よみがえった文化財 —未来へつなく 文化財保存と修復のわざ— [4/22(土)～5/28(日)]	

健康告知なしでカンタンに入れる
女性のための保険
 月払 **400円** (全年齢一律)
 お手頃な保険料に関心がある方へ
 無告知型女性特有疾病一時金保険
なでして 保険

- 1 保険料は全年齢共通
20歳から79歳までの方が月払400円でお申込みできます。
- 2 女性特有の7つの病気を保障します。
- 3 保険金は一時金で最大10万円をお支払い

通話無料 **0037-6001-65763**
 受付時間 **10～19時** (日曜定休)
 お気軽にお問合せください!
 引受保険会社 さくら少額短期保険株式会社
 〒171-0014 東京都豊島区池袋二丁目16番13号 光ビル
 保険専業代理店 株式会社ニュートン・ファイナンシャル・コンサルティング
 広告有効期限：2017年11月30日 承認番号[3434HN.1612]

石川県立美術館だより
 第402号(毎月発行)
 2017年4月1日発行
 〒920-0963
 金沢市出羽町2番1号
 Tel:076(231)7580
 Fax:076(224)9550
 URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>